

目指す学校像	・生徒のよさや可能性を伸ばせる学校 ・教職員が組織的に教育活動を進める学校 ・生徒、保護者、地域が誇れる学校
--------	--

重点目標	<p align="center"><b>一人ひとり多様な幸せ(Well-being)を大切にする中学校</b></p> <p>1 ICTを積極的に活用した授業改善で、生徒の可能性を引き出す「協働的な学習」「探究的な学習」の実践                  2 生徒指導・教育相談事案への迅速・適切な組織的対応とアフターケア並びに関係諸機関との積極的な連携                  3 学校運営協議会の効果的な運用と、方策の共有と行動                  4 面談による研修受講奨励を生かした教職員一人ひとりの資質向上</p>
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語は全国と比較すると平均正答率はやや良い結果であるが数学は低い結果となっている。市の学習状況調査では、国語、数学ともに市平均と比べ平均より低い結果である。 ○全国学力・学習状況調査において、質問項目の「国語の勉強が好きだ」「数学の勉強が好きだ」と肯定的な回答をした生徒の割合は、ともに市平均と比べ高くなっている。 ○学習規律を意識し、集中して授業に取り組むことができる生徒が多い反面、授業に対し無気力な生徒もいる。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語(学習指導要領の内容)の「言葉の使い方に関する事項」及び数学(学習指導要領の領域)の「数と式」「関数」に課題が残る。 ○生徒が学力の定着を意識した各教科を学習することの意義を理解した家庭学習の定着が課題である。	・基礎学力向上を図るためのICTを積極的に活用した授業改善 ・「協働的な学習」「探究的な学習」の実践	① 各教科について、スタディサプリなどの学習への取組状況を基に学習相談を実施し生徒が自信をもって学習できるようにする。併せて家庭学習の定着を図る。 ② 「学力向上カウンセリング」を活用し、本校の現状、課題の分析により、職員がICTを活用した授業改善や授業の工夫の必要性を実感できるようにする。 ③ 全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、漢字、文法など言語活動に関する状況を分析するとともに、校内研修を充実させ、より効果的な手立てを設定する。 ④ 国数理社GSの五教科を中心に基礎定着を図るため校内チャレンジカップ(年4回)を実施する。	① 国語、数学について、全生徒に対して学期に1回以上、学習への取組状況を基に学習相談を個別に行うことができたか。 ② 職員が本校の現状と課題に目を向け、改善に向けて、自らの授業を見直し、改善、向上に向けて行動できるようになったか。 ③ 調査結果の分析結果や校内研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。また、言語活動に関する問題について、正答率を80%以上とすることができたか。 ④ 学校自己評価に係る生徒アンケートにおいて、「自分たちに学力をつけるよう努力している」と回答する生徒の割合80%以上となったか。	① 「大谷口中 STEAMS 教育」では、「協働的な学習」「探究的な学習」の具現化のため校内研修を中心に、学年ごとに足並みをそろえ、生徒1人ひとりのWell-beingにつなげる。 ② 校種(大学・高校)を越えた教員と生徒が共に学び、試行錯誤しながら、最適解を見つける、現代的な課題の解決を目指すSTEAMSを展開する。	① 学校自己評価に係る生徒アンケートにおいて、「先生はわかりやすい授業をしてくれる」と回答する生徒の割合80%以上となったか。 ② STEAMS実施後の生徒アンケートにおいて、「実社会につながる課題に関心が高まった」と回答する生徒の割合が80%以上となったか。			
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を大きく上回った。 ○本校独自のステップアップルームの運営を通して、生徒の自己存在感を高めている。 (課題) ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・各行事等における生徒の頑張りを認め、褒めて自己肯定感の向上	① 情報端末を活用して生徒向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ② 教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報を基に生徒の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	① 学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ② 学校自己評価に係る生徒アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	① 集会对面で行い、学校代表であることの責任感や、自分も大谷口中の一員であるという所属意識を持たせる。 ② 対応が必要な案件については、校内委員会を通して情報を共有し、学校全体で対応することで、学校が生徒にとって居心地のよい場所になるようにする。	① オンラインと対面のそれぞれのメリット、デメリットを踏まえ、行事の開催方法を決定し、生徒にもその意義が伝わるように事前指導を行う。 ② 学校評価に係る生徒アンケートに「先生は安心・安全な学校づくり努力している」「いじめや差別のない学校にしている」と回答する生徒の割合が80%以上となったか。			
3	(現状) ○昨年度の学校運営協議会においては、本校の生徒の活躍を見ていただき、学校からたくさん情報が発信されるとよいつの助言をいただいた。保護者・地域からも「認めて褒めて自信をつける」という学校の方針に合ったかわりににつなげていくことが大切であることを共有した。 (課題) ○基礎学力向上のためには、生徒の学習改善としては、家庭学習の定着を目指しているところであるが、家庭からの協力も含めさらなる工夫が必要である。	・教育活動公開の充実 ・「大谷口中学校運営協議会」による、保護者・地域を巻き込んだ課題解決への方策の検討	① 年間計画に「学校公開週間」を位置づけるなど、地域や保護者に学校の様子を多く公開することで、目指す生徒の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ② 学校行事等について、広く公開を行い、生徒自身にも「地域とともにある学校」であることを意識させる。	① 学校自己評価に係るアンケートで、「目指す生徒の姿を共有できた。」と回答する割合が80%以上となったか。 ② 学校自己評価に係るアンケートで、「生徒の成長に対する関心が高まった」と回答する割合が80%以上となったか。	① 地域、保護者とともに生徒に身につけさせたい目指すべき資質・能力を共有し、課題解決のためのよりよい方策を実践する。 ② 学校運営協議会での熟議にて、生徒の実態を踏まえたよりよいものを作り上げていく。	① 学校自己評価に係るアンケートで「よりよい学校づくりのために協働活動したり、学校への関心が高まっている」肯定的な回答をする割合が75%以上となったか。 ② 学校運営協議会にて、本校の課題につながる方策を見出すことができたか。			
4	(現状) ○教員のICTを活用した授業展開が定着しつつあり、生徒も対応することができている。 ○生徒自身が各教科ではICTの活用によってより深い教材研究を行うことができている。 (課題) ○生徒がタブレットを活用した学びが充実できるよう、活用場面の選定やルール作りなどを行い、より一層の推進を図る必要がある。 ○研修については教師個人の裁量に委ねられている。	・キャリアを振り返り、適切な研修の受講による、教師自ら自分に必要とされる資質能力の向上	① 年度当初にキャリアの振り返りを行い、それをもとに管理職による面談を行う。その中で、この一年の研修の方向性を確認し、実務に生かすことができるようにする。 ② ICTを活用した学びについては引き続き研修を行い、生徒にとって最適な学びを実践する。	① 当初面談を受け、教員が一年間の研修の方向性を見極め、計画的に研修を行い、自身の資質能力を向上させることができたか。 ② 学校自己評価に係るアンケートで「わかりやすい授業の実践に努めている」に肯定的な回答をする教職員の割合が80%以上となったか。					

